

守り続けたい登山道

屋久島町立中央中学校 一年 江川 星子

私は、六年生の時に白谷雲水峡の登山道整備をしました。登山道整備では、四つのことを学びました。

一つ目は、登山道にある木の根を踏むと木が傷んでしまうということです。登山道には、たくさんの木が生えています。青々と葉かしげる木、少しやせている木、太くてがっしりとしている木。その中には、木の根が丸見え

屋久島町立中央中学校

の木もあります。だから、その根を守るようにして石や砂、落ち葉などを使って整備をしました。

二つ目は、登山道を壊さないように歩くのではなく壊してしまったり直すということですね。この話を聞いて、私は登山道を壊さないように歩くという言葉からは、足元ばっかりに集中している人を想像します。また、足元ばかりに集中しているはずと立つ木々や細く流れる水のキラキラとした景色を見逃し

てしまう。それは、とても残念でなにより今
登っている山のすずしさやきれいさそして山
登りの楽しさを実感できない。そう思いまし
た。だから、登山道を壊さないように歩くの
ではなく壊してしまっただけ直すという心構え
には感動しました。

三つ目は、登山道は整備しないうとなくなっ
てしまうということです。登山道は、誰かが
整備しないとなくなってしまう。それは、
誰かが整備してくださるから快適に歩けるよ

屋久島町立 中央中学校

うになり、山に登ることができています。し
かし、誰も整備しなくなると、道が途切れ
歩けなくなり、山に登ることができなくなっ
てしまいます。このことから、今、登山道を
快適に歩くことができ、目指した山までスム
ーズに登れるのは、誰かが登山道の整備をし
てくださっているからなのです。ここでは、
たくさんの方が整備をされていておかげで山
に登れているということを実感しました。

四つ目は、山の自然環境を大切にしながら

整備をされていいるという事です。自然環境を大切にしながら整備をされていいるというのは、なるべく、金属やプラスチックなどの山になく、エにかえりにくい素材のものは使わず、山にある石や砂や落ち葉や倒木を使って整備をしております。今回は、私たちは、石や砂は整備が必要な場所の近くにあり川まで行き、一人一つカゴとスコップを持ち、様々な大きさや形の石や砂を取り、かじがついたしよいこ」という背負える運搬具を使い、とても

屋久島町立 中央中学校

重いため交代しながら運びました。整備する前の岩はガラガラとかたむいたりしていました。しかし、整備をすると、かたむきかなくなり、安全な道となりました。また、山にあるものや川にあるものを使ったりすることで、山になじみ、一体感がありました。それから、川から運んだ石や砂はもともと山にあたり、元に戻すという山の負担のない方法だ。ということも学ぶことができました。

この体験からは、たくさんさんのことを学ぶことか下きました。整備をやり終わって帰りに登山道を歩くとたくさん整備が必要なところを発見したり新たな発見があったりしました。登山道整備をすることによって山や登山道への関心が大きく変わりました。また、白谷雲水峡にある楠川歩道は江戸時代から使われていると教わりました。この道はたくさんの方が歩いたことか削れ、さらに大雨によって削れてしまっています。これでも、今まで残

屋久島町立 中央中学校

っていることにすぎないと思いましたが、めったにできない経験をすることか下きました。これからこの登山道を守り続けていきたいです。